日本のみなさんの熱い声援を背に

世界で勝負する日本のエース

日本代表

新城 幸也
Yukiya Arashiro

Profile●1984年9月22日生まれ。ワールドチーム「バーレーン・ヴィクトリアス」で走る日本のエース。2009年、ツール・ド・フランスを日本人初完走したのを皮切りに、「グランツール」に14度出場し、すべて完走。ロンドン大会、リオ大会にも出場するなど経験豊富

東京2020をこう走る

自分がトップレベルでいられる、限られた時間にめぐってきた東京2020オリンピック。これは運命だと思いましたね。自分は海外を拠点に選手生活を送っているので、言ってみれば常にアウェイなわけです。今はさすがに17年もフランスにいるので、そういう感覚ではなくなってきましたが……。それが逆の立場になるわけで、ふだんいっしょに走っている海外の選手たちをホームに迎え、レースができる喜びは大きいです。自宅から行けるオリンピックですよ(笑)。そして日本の皆さんに本物のロードレースを見てもらえるのが本当に楽しみです!!

勝負のポイントはココ

強豪国に比べれば、選手の人数も差がありますし、はっきり言ってコース的にも自分たちにアドバンテージはありません。でも、だからと言ってチャンスがないわけではありません。それがロードレースのおもしろいところでもあるわけです。同じ日本代表の増田選手も私もベテランと言われる年齢ですから、経験値が最大の武器になるでしょう。そして、日本の皆さんの応援が背中を押してくれると信じています。たとえ会場に来られなくても、応援していただいている気持ちは伝わりますから！　スタートラインに立つのが楽しみです。

緊張感を持ってレースを楽しみたい

海外で走る唯一の女子日本人プロ選手

日本代表

與那嶺 恵理
Eri Yonamine

Profile●1991年4月25日生まれ。ヨーロッパのワールドツアーで戦う唯一の女子日本人プロ選手で、現在は「OANDA Japan」所属。2016年から2019年まで全日本選手権でロードレース、タイムトライアルともに4連覇するなど、その実力は国内で向かうところ敵なし

東京2020をこう走る

日本代表として東京2020オリンピックを走れるのは、名誉なことです。そして、それにふさわしい体制の日本チームで戦いたいと思ってきました。現在私はヨーロッパでプロとして走っていますので、そこでの結果を最優先して狙っています。ですから東京2020だからといって気負うことなく、世界選手権、フランダースクラシック、アルデンヌクラシックなどと同じ準備と緊張感を持って走りたいと思います。応援してくれる家族、後援会の方々、支えてくださった武井亨介コーチ、「フォルツァ」のみなさん、そしてスポンサーの方々のためにも頑張ります。

勝負のポイントはココ

獲得標高が2692mくらいですが、私がふだん走っているヨーロッパの山岳の多いレースに比べると勾配もそれほど厳しくなく、コースも道幅も広いので、個人的にはそれほど難しいコースだとは思っていません。単騎でのレースになってしまうかもしれないので、とにかく隠れてレースを進めます。強豪国のオランダが展開したあとは集団が「ふた」をされてしまう展開が予想されます。ですから第2集団からゴール手前の富士スピードウェイ内で抜け出し（リオのときも同様の展開で17位）、その集団の先頭でゴールするのが現実的な目標です。

奇跡のカムバックを果たした“不死鳥”

日本代表

増田 成幸
Nariyuki Masuda

東京2020をこう走る

昨年は日本代表選出を目標にして精神的にも肉体的にもハードな戦いをしてきました。コロナ禍で、代表に決まるまでつらいことの多かった1年でした。選ばれてほっとしていますが、それがゴールではありません。本番では過去最高の状態でスタートラインに立ちたいですし、最高のパフォーマンスを発揮できるように頑張らなきゃと思っています。自分は子どものころ長野オリンピックをテレビで見て、とても勇気をもらいました。かつての自分がそうだったように、この東京2020オリンピックを通して見ている人たちに感動や勇気を与えられればと思います。

勝負のポイントはココ

上りのキツいコースなので、やはりコロンビアなどクライマーがそろっているチームに警戒していきます。今回のコースは過去の大会と比べてもいちばん厳しい高低差。でも自分はこういうコースが得意なんです。新城選手は日本のエースですし、僕自身もこのコースでの走りに自信を持っています。非常に厳しい戦いになるとは思いますが、僕たちがメダルを獲得する可能性は決して0%ではありません。最高のパフォーマンスをふたりで発揮できれば、それが結果にもつながるんじゃないかと思っていますので、うまく連携していっしょに戦いたいです。

見る人に勇気を与える走りを

Profile●1983年10月23日生まれ。2006年からプロとして走るベテランで、現在は宇都宮ブリッツェンのキャプテン。2013年シーズンには海外トッププロチームでも走る。2017年にバセドウ病を患い選手生命が危ぶまれたが、試練を乗り越え復活、ファンに感動を与えた

“尾根幹”育ちのヒルクライムの女王

日本代表

金子 広美
Hiromi Kaneko

東京2020をこう走る

この東京で開催される東京2020オリンピックで走れることを誇りに思います。ここ1年半くらい長野に拠点を移して高地トレーニングを重ねるなど、今までで最高の力を発揮できるように頑張ってきました。その成果を試すのが楽しみです。私は2011年まで多摩市に住んでいました。ロードでコースデビューしたのも「尾根幹」です。そこが東京2020のコースになり、自分が走るのは不思議な気分。ともに競ってきたライバルがやめていくなかでも自分は走り続けてきました。家族やスポンサー、そして何よりこれまで頑張ってきた自分のために走りたいです。

勝負のポイントはココ

脚にじわじわ来るコースなので、しっかり組み立てていかないと完走もできません。強豪のオランダチームがどう仕掛けてくるか。その見極めが勝負ですね。相模川にかかる小倉橋でコースが狭くなるので、逃げが決まりやすい。そこで前にいないとダメでしょうね。籠坂峠からはすごく下るので、上りで耐えて下りに入れれば、ついていけるかなと。私は與那嶺選手のアシスト役なので、ボトルを渡すタイミングなども考えないと。日本女子は2人しか走りませんが、強い国で少人数参加の国もある。その動きによってチャンスが生まれるかもしれません。

東京2020を走る誇りを胸に

Profile●1980年9月9日生まれ。イナーメ信濃山形所属。2004年にMTBを始め、2008年ロードに転向。ヒルクライムを得意とし、国内最高峰のヒルクライムレース「マウンテンサイクルin乗鞍」で6連覇などの実績。2018年、2019年世界選手権ロードレース日本代表